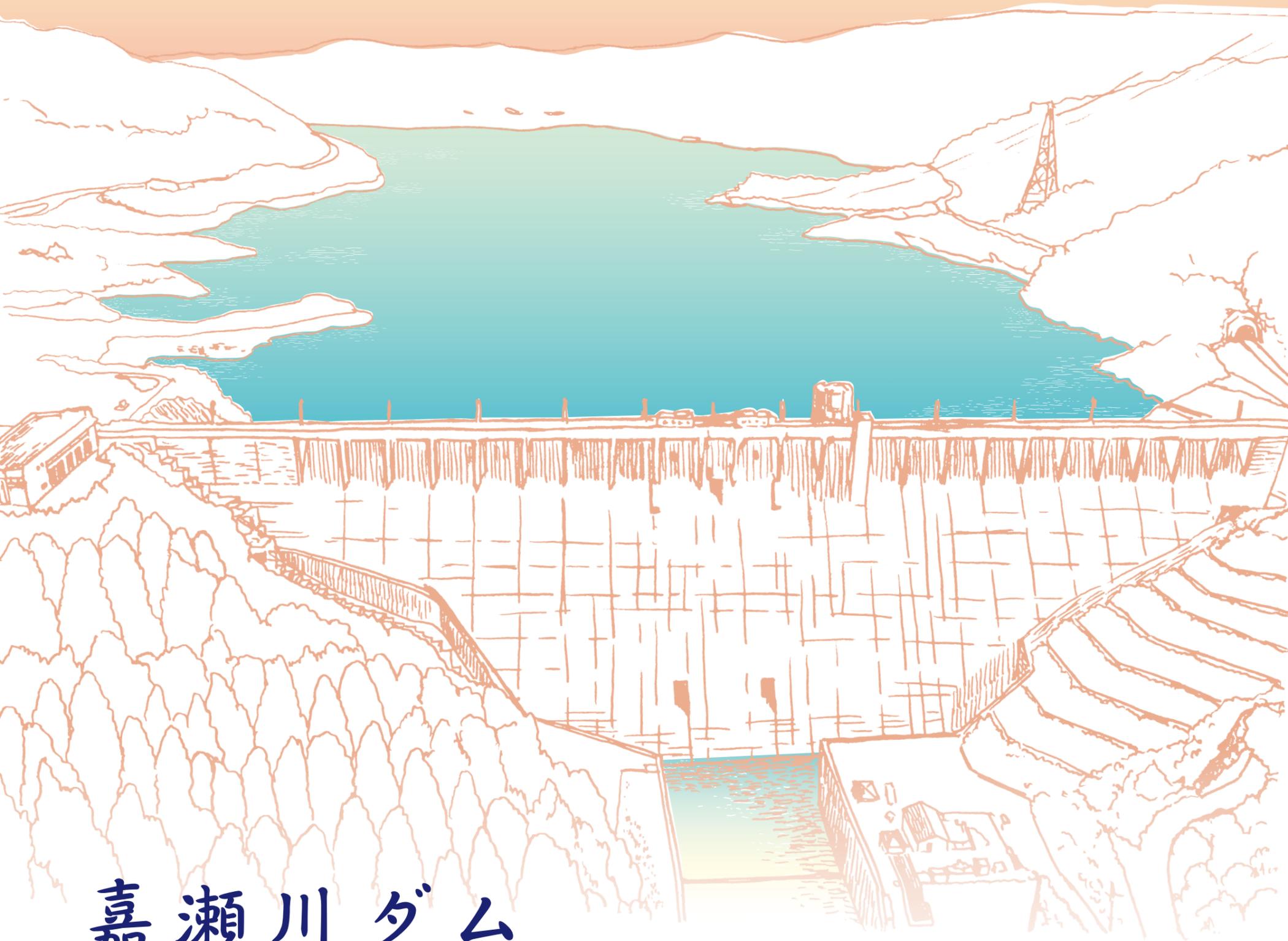


05 2022  
autumn

嘉瀬川ダム利活用推進協議会  
発行責任者 山口 澄雄

# ダムカツ

TAKE  
FREE



## 嘉瀬川ダム

嘉瀬川ダムは洪水調節や農業用水などの確保・水力発電を目的とし39年の歳月をかけて佐賀県随一の規模を誇る貯水ダムとして建設されました。当時ダム建設予定地には富士町の153戸の住民の方の暮らしがありました。地区の皆さんや用地等をご提供された方々の深い理解と、多大なる協力、そして受益地をはじめ関係者の方々からのご支援により、嘉瀬川ダムは2012年完成に至りました。そして竣工から10年の節目となる今年度、水没地区住民の皆さんに感謝する「嘉瀬川ダム竣工10周年記念祭」が行われます。

## 嘉瀬川ダム竣工10周年記念感謝祭

2022年11月6日 日 10:00 -18:30 ※雨天決行 荒天中止

メイン会場「水恵無限」碑前広場 ※嘉瀬川ダム管理支所敷地内

〈お問合せ〉 感謝祭実行委員会 090-4774-6611 (担当: 荒牧)

# ダムカツ「嘉瀬川ダム10周年記念号」インタビュー！



**大野義人さん**  
1950年(昭和25)2月20日生  
佐賀市民生児童委員  
嘉瀬川ダム建設反対等対策協議会  
嘉瀬川ダム対策協議会 事務局長  
嘉瀬川ダム活用推進協議会 会長



**吉浦利清さん**  
1946年11月4生まれ76歳  
佐賀市民生児童委員  
富士地区民生児童委員協議会会長  
富士地区社会福祉協議会会長  
社会福祉法人南部保育園理事長  
総務省行政相談委員  
「劇団 一休」団員

**「地域が力を合わせる時だ！」**  
自分自身も山林の少しが建設予定地に引っ掛かっただけだったが、ダムに沈む集落の人たちの多くが農家だったため、住まい・仕事、生活のすべてを奪われてしまうのではないかと。自分の役目を果たさなければ、今こそ地域が力を合わせる時だ！と思った。

**「大変な役目・・・」**  
勤務していた富士町にダム対策室という新たな部署ができ、昭和六十一年、嘉瀬川ダム建設反対等対策協議会への出向を命じられた。補償交渉(補償交渉委員会)地権者の委任を受け建設省と交渉をする」という大変な役目を担うことになった。  
**「土地評価は地権者に等級格差をなるべく感じさせずに納得してもらわなければならない。」**

**「決断から移転、新たな地での生活」**  
結果153戸の住家、その他小屋や田畑がダムに沈むこととなった。そのあとの展開は早かった。当初、富士町内に全戸の移転先を見つけたという思いはあったが、困難な点が多くあり、結果全体の40%が町内に移転することとなった。苦勞し以外の言葉が見つからない。

**「やむなし。」**  
昭和五十九年、ダム建設予定地とされた地区は人が住まうための地域としての開発が進まなくなっていた。ダム建設反対の気持ちに変わりはなかったが地域住民、なにより子どもたちの将来を考えると苦渋の決断を迫られた。「やむなし」。今でもそれ以外の言葉が見つからない。

**「反対せんばいかん！」**  
超牧歌的風景が広がるこの地区は、画家や写真家が風景を収めるために訪れ、映画のロケ地にもなった、まさに理想郷。愛着あるふるさとの風景を失うことなど選択肢にはなく、なんとしても「反対せんばいかん」その一心だった。

**「信じられない、信じたくない・・・」**  
昭和四十二年頃、信じがたい噂を耳にする。「富士町にダムができるかもしれない・・・」数年後、婿入りした先はダム建設予定地である西畑瀬地区だった。役場職員としてダム建設事業に関わる中、ダム建設予定地である西畑瀬地区の住民としても関わっていくこととなった。

**「今後の嘉瀬川ダムへの思い」**  
ダムの感謝祭や水上競技場の完成式典などに出席すると、下流域、特に白石町から感謝の言葉をかけていただく機会がある。なかでも印象に残っているのは、片淵前白石町長からの「白石町に澄んだ綺麗な水の来よるばい！」という言葉だ。2024国スポに向けて嘉瀬川ダム湖面もポート・カヌーなどのスポーツ大会が予定されているようです。地元のダム活用を推進する協議会としても地域資源である嘉瀬川ダムならびに富士しやくなげ湖の活用方法を佐賀市や国交省などと協議しながら、地域活性化に繋がっていききたい。

**「ありがたい。」**  
今年から嘉瀬川ダム活用推進協議会会長を仰せつかり、思い起こせば、昭和六十一年から現在までの三十七年の長きにわたり嘉瀬川ダムに関わらせてもらってきた。大変なこともあったが、「ありがたいかったです」の一言だ。

**「今後の嘉瀬川ダムへの思い」**  
完成当初は、喪失感・例えようのない歯がゆさが正直な気持ち。年月が経つにつれ、嘉瀬川ダムの恩恵が多くの人の暮らしを支えているという現実「私たちの犠牲が貢献になった」という思いに変わっていった。



今年の7月に完成した水上競技場



▲ボート体験乗船

高校総体

**「今後の嘉瀬川ダムへの思い」**  
「嘉瀬川ダムの活用には大賛成！そして佐賀の治水、発電、農業用水としてこれからも人々の暮らしに永く貢献していかれることを切に望んでいます。」

**「ダム10周年を迎えて・・・」**  
完成当初は、喪失感・例えようのない歯がゆさが正直な気持ち。年月が経つにつれ、嘉瀬川ダムの恩恵が多くの人の暮らしを支えているという現実「私たちの犠牲が貢献になった」という思いに変わっていった。

たこと言えば、西畑瀬地区にあった神社の移転申請から6年もの年月を要した。現在も近所でお詣りができることを嬉しく思う。

## ダムのこれから

水源地域連携・活性化促進協議会  
専務理事 山口 澄雄

2011年10月に勤務を終えて熊本市から帰省しました。当時は嘉瀬川ダム完成に伴い道路(バイパス)の完成による新たな道路の在り方、富士小学校、富士南小学校の統合問題、今後のダム完成に伴う活用と今後の富士町を左右するビッグプロジェクトが提示されており更に、古湯温泉センター(現英龍温泉)の財政確立がありました。  
プロジェクトのキーワードは過疎化。今なら何とか出来るが私の支えでした。少子高齢化、公共交通の間引き運転、金融機関の撤退、学校の統合過疎化の減少です。  
富士町活性化の最重要課題しやくなげ湖水上競技場が完成し湖面利用の実証実験が始まり古湯・熊の川温泉の整備があり、ダム完成して10年やっと「戦いはいまから」の戦線整備が出来つつあります。故郷を否応なく去られた皆様にも安心していただくようにすることが私たちに課せられたものだと思っています。

富士町スポーツ協会  
会長 原 敏朗

「嘉瀬川ダム10周年記念号」の発刊、おめでとうございます。ダムが見える、風光明媚な景色は何度見ても心が躍ります。この嘉瀬川ダムは、治水や利水を担うダムですが、観光資源として活用できないかと常日頃思っていました。「富士しやくなげ湖」では、2024国民スポーツ大会に向けポート・カヌー競技の整備が進められており、全国から多くの方がスポーツを通して訪れます。「ダムで勝」ってほしいですね。  
この嘉瀬川ダムは魅力いっぱいのダムです。今後、スポーツリズムに力を入れ、スポーツと観光に焦点を当てて発展できればと考えています。湖面を活用したボート・カヌーの合宿、イベント開催や体験教室、水上スキー、ラジコンヨット誘致等々、湖の周囲を活用したスポーツとして「富士しやくなげ湖ハーフマラソン、パークゴルフ、モルック、キャンプ等多くのスポーツができる環境を。ダムと自然と温泉を活用しスポーツを核とした「まちづくり」で盛り上げたいという思いです。

富士町まちづくり協議会  
会長 吉浦 明

地権者や関係者の皆様方のご理解とご協力により素晴らしいダムが完成し、早いもので10年を迎えました。さて、この素晴らしいダムを今後どうしていくのか、どう生かしていくのか、その事を考える一番大事な時期を迎えていると思います。県・市・国土交通省がそれぞれ協力し「水上競技場」が完成しました。水上競技のメッカとして各種大会や練習の場としての利用に大いに期待しています。また、スポーツだけでなく、水上スキー、遊覧船等の実証実験を実施しています。スポーツのメッカ、レジャーのメッカとしてこのダムを売り出していき、富士町の観光地、地域振興のシンボルとして大きく売り出していきたいと思います。皆様方には、このため何かとご支援を賜ることと思いますが、私たちも一生懸命頑張りますのでより一層のご協力をお願いします。嘉瀬川ダムが完成して10年、今後の進む姿の一部を私の思いで記しました。

## COLUMN (嘉瀬川ダムに関連する記念碑)

嘉瀬川ダム



「水恵無限」には、『水がもたらす恒久の繁栄』という意味が込められており、元嘉瀬川ダム対策協議会会長の妹川治氏が遺された言葉です。水没地区住民の皆様の寛容に感謝し、永遠の幸せを願い、平成24年3月、嘉瀬川ダムに建立されました。

トンボの池公園



佐賀市兵庫北にある「トンボの池公園」には、富士しやくなげ湖への感謝の意を表する記念碑が平成24年3月に建立されました。当地区の区画整理事業で利用した自然石や盛土には、嘉瀬川ダム建設事業で産出されたものが使用されています。

白石土地改良区



嘉瀬川からの農業用水を白石平野に行き渡らせる土地改良事業の完了と順調な通水を受け、平成27年11月、記念碑が白石町の白石土地改良区事務所に建立されました。碑には、水源地域への感謝の気持ちを込め「潤水思源」の文字が刻まれています。

## 編集後記

嘉瀬川ダム10周年です！！

初めまして。国土交通省 佐賀河川事務所に新規採用として赴任し、ダムカツの編集員として加わりました長野です。

このダムカツを通して、嘉瀬川ダムにはいろんな方の思いが詰まっていることがわかりました。10周年を迎えられたのもたくさんのご協力があったからこそだと思います。公共事業は<法に叶い 理に叶い 情に叶う>を胸に刻んでお仕事に取り組んでいけたらなと思います。

ダムカツを通じてたくさんの人に、地域住民の大切な思いが届いてほしいです。

ダムカツ編集部 長野朱里